

巻頭言 『得点につながる学習』 P.1

特集1

令和5年公認会計士第Ⅱ回短答式試験 短答式試験の全貌を解明!

■ 短答式試験の出題傾向と難度

企業法

P.4~6

管理会計論

P.6~10

監査論

P.10~12

財務会計論
(計算)

P.12~14

財務会計論
(理論)

P.14~16

■ 過去問分析の価値と短答対策について

企業法

P.17~18

管理会計論

P.18~19

監査論

P.19~20

財務会計論
(計算)

P.20

財務会計論
(理論)

P.21~22

特集2

2024年公認会計士試験はこう戦う!! —受験経験者のための2024年短答式・論文式必勝法—

リスタート戦略
のあり方

P.24~26

12月短答
必勝プラン

P.26~34

大原だけの
オンライン校
(上級webライブ)

P.35~36

就職・転職のことなら、多くの法人との信頼関係を築いてきた

『大原キャリアスタッフ』へ



『得点につながる学習』

得点をとるためにはどのような要素が必要なのか。

これを明確に把握しないまま、ただがむしゃらに勉強しても、どこかで行き詰ってしまう。努力を向けるべき方向を、明確に把握しよう。

「バスケットボールでシュートを決めるのって、実は簡単なことなんだよ。決まったときの状況を記憶に刻み込んでおき、それを再現すれば良いだけ。同じ位置から、同じところを狙って、同じフォームで投げれば、必ずシュートは決まるわけ。この同じことを当たり前のように再現できるようにするのが練習なんだ。何となく投げて、“決まった” といっっては喜び、“決まらなかった” といっっては落胆する……。このようなことを繰り返しているだけでは進歩はないんだよ。」

これは私が中学時代、体育の授業で先生からきいた言葉である。40年以上が経過した今でも、心に深く刻まれている。

23年目標の方々は、論文式演習の真っ只中である。思うように得点が取れず、苦しんでいる方も少なからずいらっしゃるであろう。

計算問題では、「正解を導くために必要な解答手順を明確に把握すること。」

記述問題では、「合格点獲得のために答えるべきポイントを明確に把握すること。」

このような明確化を行ったうえで、それを確実に再現できるように繰り返していくことが、合格につながる学習となる。

机には向かっているものの、得点が伸び悩んでいる方へ。

何となく投げて、結果に一喜一憂するような学習になっていないだろうか。

どのようなことをインプットし、どのような所作を経てアウトプットすれば得点につながるのか。

この問いに答えられる方は、得点力アップのための準備は整っているとあってよい。

いまだ答えが見つからない方は、講師に相談し、努力すべき方向を明確に把握しよう。

皆さんが見事ゴールを決められることを願っている。

[目次へ](#)

特集1

令和5年公認会計士第Ⅱ回短答式試験 短答式試験の全貌を解明!

5月28日(日)、令和5年公認会計士第Ⅱ回短答式試験が実施されました。午前9時半から午後6時まで、3時間半の途中休憩は挟むものの8時間半にもおよぶ長丁場の中で、集中力を持続させ、自己のもち得る知識を総動員して戦い抜かれた受験生の皆さん、本当にお疲れ様でした。

大原の講師陣も本試験終了後に届けられた問題に目を通し、自己のでき栄えに思いを巡らす受験生の皆さんに、試験の実態をいち早くお知らせすべく模範解答作りに取り組みました。



令和5年5月30日 オンライン会議にて

【座談会出席者】

管理会計論
水野 悦之

監査論
栗田 篤

財務会計論 (計算)
瀧本 祐和

司会
永瀬 幹根

企業法
鴻巣 一樹

財務会計論 (理論)
新井 孝志

[目次へ](#)

短答式試験の出題傾向と難度

永瀬 本日は、短答式試験の模範解答の作成に携わっていただいた講師の方々にお集まりいただき、出題傾向の分析と次回へ向けての対策などをお伺いして参ります。



司会
永瀬 幹根

さて、出題問数は財務会計論が28問、企業法と監査論が各々 20問、管理会計論が16問と前回と同様でした。また、出題形式も4肢6択形式の理論問題が、監査論、企業法、財務会計論、そして管理会計論で出題されました。

そこで、試験実施の順に企業法から今回の出題傾向について、問題そのものの難度や受験生にとっての取り組み易さなどについて、お聞きしていきます。

(なお、ここで難度とは、一般的な受験生が制限時間内で正解を導き出すうえでの設問そのものの純粋な難しさの程度を、大原の講師陣が受験指導の経験を通じて判定したものであって、最終的な合格基準を判定

[目次へ](#)

する尺度ではありません。)

企業法

前回よりは易化するも難度は高い

鴻巣 問題数は20問で、金商法が2問、会社法が16問、出題形式も4肢6択で正しいものの組合せを選ぶ形式で、配点はすべて5点という点は従来と同じでした。ただ、例年、商法が2問出題されるどころ、商法のうちの1問（**問題2**）が純粋な商法の問題とは言い難い問題（登記の問題でしたが内容は会社の登記事項）であったところが従来と異なる点でした。

内容面については、従来通り、条文の知識を問う肢がほとんどでした。また、前回多く出題された、ほとんどの受験生が学習されていないと思われる細かな知識に関する肢は減少しました。

判例に関する肢は、前回7肢から5肢（**問題2** ウ、**問題10** ア～エ）に減少しましたが、いずれの判例も受験生にはあまり馴染みのない判例でした。もっとも、**問題10** については、今までに学んだ知識を駆使すれば消去法で正答を出すことは可能であったと考えます。

改正に関する肢は、令和元年の会社法改正のうち、施行時期がずれていた電子提供措置に関する出題が丸々1題出題されました（**問題9**）。上述のように細かな知識に関する肢は減少したものの、誰でも知っているような知識を問う肢は少なく、難度については、前回よりは緩和されたものの、やや高めであったと思います。

目次へ 



永瀬 内容面について、具体的に教えてください。

鴻巣 商法は、**問題1**が商行為、**問題2**が会社の登記に関する問題でした。いずれの問題もややマイナーな論点に関する正確な知識が問われる問題で難度は高かったと思います。

金商法は、**問題19**が開示書類の公衆縦覧、**問題20**が有価証券の募集に関する問題でした。**問題19**は易しかったと思いますが、**問題20**は受験生がなかなか手が回らないであろう条文の知識が問われたため難度が高かったと思います。

会社法16問の内訳は、設立2問、株式2問、機関6問、資金調達1問、計算1問、社債1問、組織再編3問でした。基本的には例年通り万遍無く出題されていますが、前回同様、組織再編の分野から3問出題された点が特徴的です。

また、法務省令の会社法施行規則、会社計算規則の

細かな知識を問う問題が出題されました。

全体的に見ると、細かな知識に関する肢が前回より減ったものの、各分野につき満遍なく、正確な理解・記憶を必要とする問題であったことから、思うように点数が伸びなかった方も多かったと思います。もっとも、正確な理解・記憶を心掛けて学習していた方には十分実力が発揮できた問題であったと考えます。合格ラインは前回よりやや上がり70点といったところでしょうか。

永瀬 ありがとうございます。企業法は思うように点数が伸びず、企業法で貯金を作るのは容易ではなさそうですね。では管理会計論はどうだったのでしょうか。

管理会計論

スピードと精度の両立

水野 今回は前回と比較して、やや難化したと考えられます。計算問題は問題の取捨選択をしっかりといただければ必要な点数を確保できたでしょう。理論問題は、基礎的な知識、計算問題の解法を問題演習などを通じて身に着けていれば十分に戦える問題であったと考えられます。計算：理論の問題数の比率はここ最近の傾向通りで、計算8問：理論8問（配点でみると計算60点：理論40点）となります。正答ができそうなAランク問題を見極め、確実に点数を積み上げることができたかが肝となります。

前半8問は計算問題が4問、理論問題が4問の出題でした。計算問題では、**問題2**にて労務費から出題

[目次へ](#) 

されておりましたが、就業時間に関する資料が読み取りづらい部分があり、時間を費やしてしまった方もいらっしゃるかもしれません。理論問題については、「原価計算基準」からの出題が減っています。ただ、問題の前提文として、「原価計算基準」を用いた出題もありましたので、今後も基準は徹底的に対策をしておく必要があるでしょう。

後半8問は計算問題が4問、理論問題が4問の出題でした。計算問題は、前回に引き続き全体として解きづらい問題が続いていました。一方、理論問題に関しては、前回の出題と同様、テキストをしっかりと読んでいただければ正答可能な選択肢が多かった印象です。

全体を通じてやや難化したと考えられます。管理会計論はここ最近、応用的な問題が多く出題されておりますが、基礎的な問題に絞って冷静に点数を積み上げれば、大崩れしない安定した点数を獲得できます。応用的な問題は概ね正答率も低いので、無理に手を付けず、落ち着いてできる問題を確実に得点する姿勢を持っていただきたいです。

永瀬 今のご説明で全般的な出題傾向はわかりました。では、次に各問題についてのコメントやランクについてお願いいたします。

水野 難度のランクを総括すると、Aランクの問題が9問、Bランクが4問、Cランクが3問でした。Bランクが **問題2**、**問題9**、**問題11**、**問題12**、C

[目次へ](#) 

ランクが **問題1**、**問題14**、**問題15** となります。ただし、個々のランクと問題全体の難度は必ずしも一致はしません。



管理会計論
水野悦之

まず計算問題です。原価計算分野からは **問題2** については、残業時間に対する割増賃金もあり、先ほどお話した就業時間に関する資料の読み取りであったりと様々な要因で少し時間がかかる問題と考えられます。そのため、後回しにしてよい問題であったと考えられます。続いて、**問題4** ですが、個別原価計算からの出題でした。問題文を注意して読めば正答を導き出すことは難しくありませんでしたので、正解して頂きたい問題です。**問題5** **問題8** は各演習の復習ができていれば、正答可能であったでしょう。**問題11** は少しパズルの要素もあったかもしれませんが、既存のそれぞれの算定ができれば解答も可能であったかと思えます。**問題12** に関しては、短答直対演習でも出題いたしましたが、売上原価から変動製造原価、固

[目次へ](#)

定製造原価を算定し、その変化額を算定していく問題となっておりました。

問題14 は、今回の計算問題の中で一番難解な問題であったと考えられます。状況を整理しながらその都度利益計算を行っていく等作業量が多い上に、不明数の算定が難解な部類に入ると考えられますので、実際には解答された方は少なかったでしょう。**問題15** は戦略的意思決定の問題でした。論点で敬遠された方もいらっしゃるかと思いますが、実際にはステップ演習 I にて出題した内容とほぼ同じ問題であり、時間をかけることができれば正答可能であると考えられます。そのため、計算問題としては、**問題4**、**問題5**、**問題8** などで得点をしていく必要があったと考えられます。

次に理論問題ですが、**問題1** はまずは「原価計算基準」の既存の知識で前提の文章があっているかの確認をできるように学習を進めて行きましょう。

問題3 **問題6** **問題7** は「原価計算基準」をしっかりと読んでいた方であれば正答を導き出すことも可能であったでしょう。続いて、管理会計の分野ですが、**問題9** はテキストの内容を中心に出题されておりました。特に選択肢ア、イに関してはテキスト記載の図がイメージできたかが解答のポイントになったでしょう。**問題10** については、財務情報分析のそれぞれの指標の算式を上げた上で分析をしていただく問題でした。**問題13** に関しては、原価管理の基本的な問題となっておりましたので、正答が望まれる問題であったと考えられます。最後に **問題16** はシェ

[目次へ](#) 

アード・サービス・センター等、短答公開模試で出題した内容でもありましたので、しっかりと復習をした方であれば問題なく得点可能であったと言えます。

Aランクの問題を見極め、それを確実に正答する力が要求されておりました。Aランクの問題で指示の読み飛ばしや読み間違い、計算ミス等による間違いやタイム・ロスがあると点数を積み上げることができません。いかに手堅く点数を積み上げることができたかが分かれ目でしょう。これらすべて考慮しますと、管理会計論で望まれる点数は60点程度となるでしょう。

永瀬 普段解いている演習や問題集を通じてAランクの問題を確実に解答できる基礎力を付けていくことで負けない点数が確保できたということですね。

さて監査論は、前回の短答式試験と比べると、いかがでしたでしょうか。

監査論

前回より易しくなった

栗田 形式面は前回と同様で、4肢6択の問題が20問出題されており、正しい肢の組合せ番号を選ぶものでした。問題文のボリュームに大きな変化はなく、各肢に十分に時間をかけることができる程度の量であったと思います。

難度については、前回より易しくなっており、Aランクの問題が17問、Bランクが2問、Cランクが1問でした。基礎的な知識があれば解答が可能なAランク問題をすべて得点すると、85点獲得することが可能で

目次へ 

すので、80～85点を目指したい問題と言えます。

監査論

栗田篤



今回の問題では、**問題13**、**問題16**がBランクで、**問題3**はCランクでした。これらの問題以外についてはテキストや演習等の教材の知識で正答が導ける問題で、Aランクとなります。Aランク問題は取りこぼさずに正答していただきたいかったです。

永瀬 今回の監査論で、出題内容や傾向に特徴はあったのでしょうか。

栗田 毎回1問出題されている分野の内、四半期レビューが出題されず、金融商品取引法と不正リスク対応基準は、他の分野とともに出題されており、数肢しか出題されていないという点がこれまでと違う点となりますが、公認会計士法は**問題4**、会社法は**問題5**、品質管理は**問題6**、**問題7**、内部統制監査は**問題9**で出題されており、出題分野は前回ま

[目次へ](#)

でと大きな違いはありません。

問題2において、虚偽表示に該当する状況を選ぶ問題が出題されており、その場で考える必要がある問題となっていました。落ち着いて考えることができれば正答を導くのは難しくない問題でしたので、正答していただき良かったです。

出題分野の大きな変化もなく、難度も易しくなっておりましたので、受験生は学習の成果を感じることができたのではないかと思います。

永瀬 ありがとうございます。次に財務会計論ですが、計算のボリュームの変化はあったのでしょうか。また、難度も含め、内容面ではどうだったのでしょうか。

財務会計論（計算）

標準的

瀧本 財務会計論の出題形式は、前回までと同様に全体で個別問題が22問、総合問題1問（設問6問）の構成は変わらずでした。やや取り組みにくい問題もありましたが、確実に正答すべき問題とそうでない問題の見極めは容易だったと思います。典型的な問題も多かったため、基本的な練習をしっかりとこなしてきた方であれば、8問（64点）程度の正答は可能でした。総合問題は、見慣れない論点も含まれていましたが、部分点は簡単に確保できるため、3問（12点）程度の正答は期待したいところです。

[目次へ](#) 



永瀬 財務会計論（計算）の問題を解くにあたっては、どのような点に留意する必要があったのでしょうか。

瀧本 短答式試験では満点を取る必要はなく、正答できる問題を確実に正答することが求められます。講義や演習解説でもお伝えしていますが、まさにその点が問われています。普段の演習から平易な問題を確実に解答して点を積み重ねていくことを実践してきた方は、十分な得点が確保できたのではないのでしょうか。

永瀬 なるほど。では、個々の問題についての具体的なコメント及び難度をお願いします。

瀧本 個別問題のAランクは、**問題5**、**問題6**、**問題10**、**問題13**、**問題15**、**問題16**、**問題20**、**問題21**です。これらの問題を確実に正答して点数を積み重ねたいところです。基本論点を網羅的に学習

し、苦手論点を作らないように取り組んできた方は点数を積み上げることができたと思います。

個別問題の **問題4**、**問題8**、**問題18** はBランクです。見慣れない資料などが含まれている問題であったり、手薄になりがちな論点であったりしますから、Aランクと比べると正答しづらい問題といえます。ですが、普段の学習で身に付けた知識をベースに問題文を丁寧に読み取ることで正答につながります。Aランク、Bランクから8問程度を正解したいところです。なお、**問題3** はCランクです。

問題23 ～ **問題28** は連結財務諸表の総合問題でした。**問題23** ～ **問題25** はAランクであり、解きやすい問題でした。後半の3問が難解ですので、易しい前半3問を確実に正答することが求められます。

問題26 ～ **問題28** はCランクです。

永瀬 わかりました。財務会計論（計算）は解きやすい問題を確実に正解に結びつけることが重要だということですね。次に財務会計論（理論）に関してですが、今年の傾向はどうでしょうか。

財務会計論（理論）

難度は前回とほぼ同じ

新井 理論は前回より1問少ない10問の出題でした。基本的な論点为中心であり、全体としての難度は、前回と同様、やや易しめであったといえます。

約9割の肢が大原の理論テキストの知識だけで判定でき、大原の短答直対演習・短答実力養成演習・肢別

[目次へ](#) 

チェックで解いている内容も数多く出題されていましたので、大原生は高得点が可能です。基本論点を網羅的に学習していた受験生にとっては、高得点が期待できる良問であったと思います。

永瀬 それでは、個々の問題の難度と目標ラインをお聞かせください。

新井 Aランクは **問題1**、**問題2**、**問題7**、**問題9**、**問題11**、**問題14**、**問題17**、**問題22**の8問です。このうち **問題1** と **問題2** は、すべての肢が大原の理論テキストの知識だけで判定でき、いずれの問題も「誤りの肢2つ」が簡単でしたので正答可能です。残りの **問題7**、**問題9**、**問題11**、**問題14**、**問題17**、**問題22** は、ほぼすべての肢が大原の短答直対演習と短答実力養成演習で出題していた論点であり、大原生は容易に正答可能です。

財務会計論
(理論)

新井孝志



[目次へ](#)

次にBランクは **問題12** です。

ストック・オプション数を見直す場合には、費用総額は見直されることになるため、アの肢は誤りです。しかし、公正な評価単価は付与日現在で算定し、条件変更の場合を除き、その後は見直さないため、アの肢は正しい、と間違えて判定する受験生が多いと予想し、この問題はBランクとしました。

最後は **問題19** です。「子会社」の数を選ぶ過去の本試験の出題と異なり、今回は「連結会社」の数を選ぶ問題であったため、親会社P社も含める必要がありますが、この点を見落とす受験生が多かったと思われる。この問題は正しいもの2つの組み合わせを選ぶ形式ではなく、消去法で解答することもできないため、正答困難なCランクとしました。

BランクとCランクのうち1問でも正答できれば有利になりますが、これらの問題はミスしてもやむを得なかったと思います。

財務会計論（理論）は、Aランク8問をすべて正答し、10問中8問の正答が目標ラインです。

永瀬 わかりました。財務会計論（理論）は、Aランクを確実に拾っていけば高得点が期待できそうですね。

過去問分析の価値と短答対策について

永瀬 さて、次に今回の出題傾向を踏まえて、今後の短答対策のポイント等をお聞かせください。

企業法

出題傾向にかかわらず基本が大切

鴻巣 出題傾向にかかわらず、まず「基本的な知識を正確に理解・記憶すること」、特に「記憶」という点大切です。勉強をしている割に点数が取れないという方は、漫然とテキストを見たり、問題を解いたりという方が多いのではないのでしょうか。もちろん意味もわからず、丸暗記をするのはいけません。最後に勝敗を分けるのは「正確な知識」です。そのためにも、理解をした後は、「意識的に暗記する」ということを心掛けることが大切です。



※試験会場イメージ

目次へ 

また、最近の本試験では細かい知識が問われていることから、徒に細かい知識を覚えようとする方がいますが、それは、あくまでも基本的な知識を習得してからの話です。基本的な知識が曖昧な段階で細かい知識を入れようとする、全てが中途半端になるという一番悪いパターンに陥る可能性があります。

出題傾向が変わっても、「細かな知識にとらわれることなく、基本的な知識を確実にして、正解すべき問題で確実に正解できるようにしておく」という学習の基本は変わりません。

管理会計論

Aランク問題を手堅く

水野 今後の短答対策としては、先ほども強調いたしました。まず点数を積み上げるために、Aランクの問題であれば読み飛ばしや計算ミス等でタイム・ロスなく確実に正答することが求められます。Aランクの計算問題と理論問題を正解することで、大崩れは防げます。もともと管理会計論は攻める科目ではないので、この姿勢を持つようにしてください。ここで、勘違いしていただきたいたくないのは、管理会計論での合格点とは合格ボーダーの得点比率のことではありません。管理会計論での合格点とは「周りに負けない点数」です。内容面の難度の高さに時間的制約が加わる管理会計論では、費用対効果を考え、細かい枝葉の論点まで準備するよりも、相対的に負けないことが重要です。財務会計論等で周りに勝つ点数、稼ぐ点数を取り、管理会計論は踏みとどまる点数を確実に取る、と

というのが望ましいです。良いときは良いが悪いときは悪い、ではなく、悪いなりに常に一定以上の点数を取る、ということです。

この戦い方の場合、Aランクでの取りこぼしは致命傷になりますので1問1問を速くかつ正確に解く力が要求されます。そこで、計算については、演習の復習優先度Aランクの問題や問題集を学習の中心教材とし、これらの中で解けない問題、時間がかかる問題があるならば、まずはそれを速く解けるようにすることが大切です。できなかつた問題、時間のかかる問題をピックアップし、間を空けずに短期間で繰り返し解くことが求められます。基礎的な計算力、すなわちAランク問題に対する精度とスピードが付いてくれば、時間のかかりそうな問題、内容が難解な問題を見極める力も必然的に養うことができるので、手堅く、かつ効率的に点数を積み上げることができるようになります。また、ここまでできるようになったのを前提として、自習時には意欲的に難しい問題、例えば演習で復習優先度Bの問題と戦うことも大切です。ワンランク上の問題を高地トレーニングとして経験しておくことで、基礎的な問題がより確実に正答できるようになるからです。

監査論

基礎的な知識を確実に！

栗田 過去問は繰り返し出題されていますが、演習や肢別チェックにおいて情報提供しておりますので、それを確認していただければ十分です。ご自身で過去問

目次へ 

分析を行う必要はありません。

最近の短答式試験の監査論は、難しい問題や難しい肢が出題されることもありますが、テキストレベルの基礎的な知識で7～8割得点できるような出題となっています。

そのため、合格水準に到達するために、基礎的な知識について、正確に、漏れなくおさえることが重要となります。テキスト、肢別チェック、演習を繰り返し学習することにより、基礎的、典型的な問題に対応できる知識を確実に習得してください。

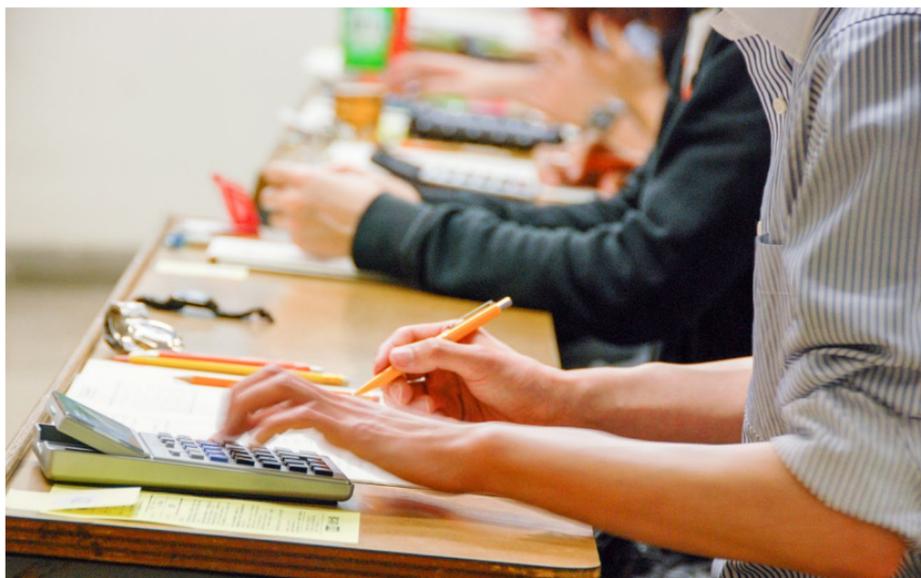
財務会計論（計算）

問題演習量を確保する

瀧本 財務会計論（計算）に限りませんが、短答式試験ではAランクの問題を確実に正答することが大切です。そのためには必要十分な問題演習量を確保することが求められます。講義期には講義の復習にあたってしっかりと問題集に取り組み、繰り返し問題を解く必要があります。さらに演習期に入ってからでも演習の問題を繰り返し解くことが大切です。大原の演習は本試験の出題傾向を反映して作り込まれていますので、演習を繰り返し解き直すことでAランク問題が確実に解けるようになるはずです。

あとは解くべき問題を見抜く力を養い、さらにひっかけ問題に対応できるようにするため、知識を体系的に整理することを心がけてください。そのために、問題演習の過程で気になったところはこまめにテキストに戻って確認をすることが大切です。

目次へ 



※試験会場イメージ

財務会計論（理論）

短答実力養成演習とポケコンで基本論点をマスターする！

新井 理論の出題範囲である会計基準・適用指針等の規定は膨大な量があります。大原のテキストは、過去問を分析したうえで、これら膨大な量の中から出題の可能性が高い基本論点を抽出して作成しています。また、肢別チェックと短答実力養成演習は、再び出題される可能性が高い過去問を取り入れていますので、これらの問題を解けば、過去問対策も十分です。財務会計論（理論）の短答実力養成演習は、巻末に確認問題を収録し、基本論点を効率的・網羅的に復習できるようにしています。実際に今回の試験で出題された肢の約6割が短答実力養成演習（確認問題を含む）で解いたことのある肢でした。

目次へ 



テキストと短答対策用のインプット教材であるポケットコンパスを利用して基本論点の理解と暗記を進め、肢別チェックと短答実力養成演習の問題演習を通じて、これら基本論点に関する知識の精度を高めれば、Aランク問題は確実に正答できるようになります。あとは本試験と同レベルの短答直対演習を通じて実戦経験を積めば短答対策は万全です。

永瀬 合格点を取るには、どの科目も細かな知識に走らず、Aランクに相当する正答すべき基本的な問題を確実に取るというスタンスで共通しています。

[目次へ](#)

テキストを読み込み、情報を整理して基礎的な知識の精度を高めて肢の判断力を養うことが必要だということですね。

先生方のお話してから、今後も短答対策の学習の基本的なスタンスは従来と変わらないということがわかりました。

ご参集の先生方、昨日の模範解答の作成でお疲れのところ、誠にありがとうございました。

それでは、これで令和5年第Ⅱ回短答式試験の振り返りを終了いたします。

特集2

2024年公認会計士試験はこう戦う!!

—受験経験者のための2024年短答式・論文式必勝法—

短答式試験が終了し、早や2週間が経ちました。自己採点の結果に手応えをお感じの方は、論文式試験に向け自己の弱点を補強し、知識の精度を向上させてください。一方、短答式試験で満足できる結果を得られなかった方は、試験の結果を分析し、次の12月短答を確実に突破するために1日も早く学習を再開しましょう。今回は、主に12月短答の突破を目指し、リスタートをしようという方々へ大原から公認会計士試験の戦い方をご提案します。その第1はリスタート戦略のあり方、第2は12月短答必勝プラン、そして第3はご自身の実力に応じたコース選びです。これらを参考に、12月短答を突破し論文式試験に合格するためのプランニングを行い、再チャレンジに向けたリスタートを切りましょう。

1. リスタート戦略のあり方

(1) まずは12月短答を突破

2024年の会計士試験合格を目指す皆さんにとって、当面の目標は12月短答の突破です。12月短答を突破すれば、その後の論文対策の学習にじっくり取り組めるため、受験戦略上非常に優位に立てます。つまり、5月短答を意識する必要がないため、12月短答終了のタイミングから、租税法や選択科目も含めて全科目のバランスを考えながら論文対策に取り組むことが可能だ

目次へ 

からです。過去の合格実績を分析してみても、12月短答の合格者はその年の論文式試験において高い割合で合格を果たされています。

ところが、短答式試験のボーダーラインが概ね60%台～70%前半前半を推移する現状では、短答式試験を単なる通過点と捉えることはできません。ボーダーラインがこの水準にあるということは、基礎的な問題を1～2問取りこぼしただけで致命傷になりかねないからです。それだけに、12月短答の対策は万全を期すべきであり、そのためにも適切なコースを選び、1日も早く学習を再開することが重要です。

(2) 早期リスタートの勧め

12月短答に合格するという目標を立てたとき、まず行わねばならないのは受験経験者としてのご自身の「仕上がり度」の確認です。「仕上がり度」については、次の①～③の事項を目安に判定をしてください。

- ①初学者コースの講義・演習をすべて受講したか。
- ②演習では、平均点程度をコンスタントに獲得していたか。
- ③科目により得手・不得手はあっても、受験科目の全範囲について基礎知識を網羅できているか。

まだ①～③のレベルに達していないと自覚される方は、リスタートの時期をこの6月初旬からとお考えください。特に財務会計論や管理会計論の計算部分の演習成績について、平均点に到達していなかったという方は、次の【表1】の12月短答必勝プランを参考に、

1日でも早くスタートを切るようにしてください。合格コースとしては、経験者向け講義（短答式試験対策のインプット）が含まれる上級フルパック合格コースをお勧めします。

一方、今回の短答式試験では手応えを感じられなかったが、計算科目については普段の演習で平均点以上を常に獲得しているという方は、7月中旬に開催される論文式公開模試を今年度の受験勉強の締め括りと位置づけ、この直対期を最後まで駆け抜けてください。論文受験者と同じ経験を積むことは、次年度の受験勉強に必ずプラスとなって現れます。その後、上級フルパック合格コースに合流して、じっくりと短答対策に取り組んでください。

なお、2024年受験の上級コースの概要は、**【表2】定型コースに含まれている講義と演習**をご覧ください。

2. 12月短答必勝プラン

(1) 短答計算科目の攻略プラン

①得点が伸びない理由

計算科目が得意になれば、安心してエネルギーを理論科目へ配分できます。しかし、「まだまだ安定した得点源にはなっていない」、「知識に不足があるとは思わないが得点に繋がらない」という方は、まずはご自身の学習スタンスを振り返ってみてください。

計算科目は、初年度に一通りのインプットを終えると、受験年の後半からは問題演習を繰り返し、制限時間内に如何に高得点を獲得するかというアウトプットトレーニングに重点が移ります。これが殆どの受験生

[目次へ](#) 

が実践している計算科目の学習スタンスです。しかし、「ある論点が出題されると途端に点数が伸びなくなる」、「典型問題は何となく解けるが、少し複雑になると手が出ない」といった方は、各論点についての知識が曖昧であったり、しっかりと整理されていないため、問題の解法に際しても、論点の繋がりを紐解く糸口を見出せずにいる状況に陥っているのです。

②計算科目の克服法

このような状況から抜け出し、計算科目に確たる自信をもつためには、点数が伸びず克服したいと考えている論点について、テーマを絞って問題演習をやり込むことです。具体的には、ある論点について、既にお持ちの演習問題を取り揃え、テーマのボリュームに応じて2日間とか3日間、関連する問題を徹底的に解くのです。もちろん、間違えたところはテキストに立ち返って知識の確認と整理をしていきます。これを論点ごとにテーマを決めて実行し、得意論点を一つひとつ増やしていくことで、その科目を得意科目にすることができます。このような勉強は、この夏の間を終えておきたいものです。そこで、財務会計論（計算）と管理会計論については、6月初旬から開講する「経験者向け講義（前編）」、7月上・中旬から開講する「経験者向け講義（後編）」をペースメーカーとして、テーマごとに知識の確認と整理を行うとともに、ステップ演習にて本試験の出題形式に応じた実践的な判断力・計算力を養ってください。

(2) 短答理論科目の攻略プラン

①得点が伸びない理由

一般に、理論科目は理解が大切だと言われていきます。しかし、正確な理解をするためにはある程度のまとまった知識がインプットされていることが前提となります。論文式試験ではあるテーマについての総合的な理解が問われ、短答式試験では主として理解の前提となる知識が出題されています。短答式試験で点数が伸び悩む方の多くは、インプットされた知識の量が不足しているか、正確性に問題があることが多いようです。それ故、4肢6択形式で出題される短答式試験では肢を絞り込むことができず、自信を持って正答肢を選べないという状況に陥っている方が見受けられます。

②短答理論科目の克服法

短答式試験突破のための理論科目の学習で最も重要なことは、講義で使用したテキストを読み込み、必要な知識をインプットすることとその網羅性です。その際、「肢別チェック」のA・Bランクを中心とした問題演習を同時に行うことで、テキストの記載内容の記憶への定着を図ります。また必要に応じて、法規集の規定や六法の条文等の原典を参照することで、知識の裏付けを取ることも忘れてはなりません。次に、短答直対演習で、問題毎の難度を予測する目を養うとともに、難度の低い問題から優先的に解く、また、難解な問題も関連知識を総動員して正答を導き出すという実践的なテクニックを習得してください。

そこで、まずは「経験者向け講義」にて大方の受験生が苦手意識を持つ分野・論点を中心に短答突破に必

要なポイントを概観し、弱点の洗い出しと克服のための正確な理解と知識に磨きを掛けてください。また、一通りのインプットが終了すると、9月初旬から始まる「短答実力養成演習」のトレーニングを通じて基礎知識の再確認を行い、10月中旬からスタートする「短答直対演習」に備えていただきます。

【表1】2024年受験 上級コース

12月短答必勝プラン(上級フルパック合格コースの年内カリキュラム)

2023年	財務会計論		管理会計論	監査論	企業法
	(計算)	(理論)			
	会計学				
6月	経験者向け講義(前編) (4回)		経験者向け講義(前編) (4回)	経験者向け講義(前編) (7回)	経験者向け講義(前編) (4回)
7月		経験者向け講義(8回)			
8月	経験者向け講義(後編) (8回)	ステップ演習Ⅰ(16回)	経験者向け講義(後編) (4回)	経験者向け講義(後編) (5回)	経験者向け講義(後編) (8回)
9月					
10月		短答実力養成演習 (6回)	短答理論対策 (1回)	短答実力養成演習 (6回)	短答実力養成演習 (6回)
11月		短答直対演習 (4回)	短答直対演習 (4回)	短答直対演習 (4回)	短答直対演習 (4回)
第Ⅰ回短答式全国統一公開模試					
12月	短答ファイナル 演習1回	短答対策	短答ファイナル 演習1回	集中期間	短答ファイナル 演習1回
第Ⅰ回短答式試験					

P25へ 

目次へ 

経験者向け講義〔前編〕

短答式試験対策として、できるだけ早期に着手して克服しておきたい論点を取り上げる講義。

※財務会計論（計算）、管理会計論、監査論、企業法について実施致します。

経験者向け講義〔後編〕または経験者向け講義

短答頻出論点や受験生の多くが苦手とする分野を中心に取り上げ、短答式試験でハイスコアを狙える実力に仕上げるとともに、論文式試験をも視野に入れた論点の掘り下げを行う講義。

ステップ演習 I

12月短答突破に向けて計算演習を積まれる短答受験生の方に、出題論点を一巡していただける演習。

短答実力養成演習

短答理論3科目について、それぞれ全範囲を6回に分けて、確実に獲るべきAランクの問題を中心に出题。

毎回、3時間枠で1回の演習とその解説を実施し、基礎知識の再確認と弱点分野の克服を狙いとします。

短答直対演習

短答対策の各種講義で修得した知識を総動員して、制限時間内で如何に高得点を獲るかを実践する演習。時間配分、設問や肢の難度の予測など、短答突破に必須の判断力を養います。

6月以降、この夏をメインに開講する【表2】の合格コースの中から、皆さんの学習プランに応じて適切なコースをお選びください。

目次へ 

【表2】

	上級ベーシック	上級フルパック	上級短答論文	上級論文総合 ^{※1}	上級論文対策 ^{※1}	12月短答必勝履修者のための上級論文対策	上級論文演習 ^{※1}
開講月	6月	6月	9月	9月	11月	12月	12月
短答式試験科目の講義	初学者用 ^{※2}	経験者向け ^{※3}	論文対策 ^{※4} 経験者向け	論文対策 ^{※4} 経験者向け	論文対策 ^{※4} 経験者向け	—	—
租税法・選択科目の講義	初学者用 ^{※2}	初学者用 ^{※2}	初学者用 ^{※2}	初学者用 ^{※2}	受験経験者用	初学者用 ^{※2}	—
Web講義セット標準装備 ^{※5}	—	○	○	○	—	—	—
管理短答理論対策講義 ^{※6}	○	○	—	—	—	—	—
監査論事例対策講義 ^{※7}	○	○	—	—	—	○	—
企業法論証例解説講義 ^{※7}	○	○	—	—	—	○	—
管理・租税理論対策講義	○	○	○	○	○	○	○
経営学新試験委員対策講義 ^{※7}	○	○	○	○	○	○	○
租税法令和5年改正特別講義 ^{※7}	○	○	○	○	○	○	○
租税法組織再編税制特別講義 ^{※7}	○	○	○	○	○	○	○
論文総まとめ	○	○	○	○	○	○	○

P26へ 目次へ 

	上級ベーシック	上級フルパック	上級短答論文	上級論文総合※1	上級論文対策※1	ための上級論文対策 12月短答必勝履修者の	上級論文演習※1
短答実力養成演習	○※8	○※8	—	—	—	—	—
短答直対演習	○	○	○ (5月対策)	—	—	—	—
ステップ演習 I	○	○	△※9	△※9	△※9	△※9	△※9
ステップ演習 II・直対	○	○	○	○	○	○	○
論文基礎・応用・直対演習	○	○	○	○	○	○	○
短答公開模試	○	○	○ (5月対策)	—	—	—	—
短答ファイナル演習※10	○	○	○ (5月対策)	—	—	—	—
論文公開模試	○	○	○	○	○	○	○

※1 科目合格者対応コース

短答免除者を対象とした上級論文総合、上級論文対策、並びに上級論文演習の各合格コースについては、科目合格者のご要望に柔軟にお応えできるよう受験が不要な免除科目の講義と演習の受講料を一般価格から控除してお申込いただけます。

※2 初学者用講義

初学者向けの講義は、スピーディーかつコンパクトに受講いただけるようスタジオ収録の凝縮講義をラ

P26へ 

表2へ 

目次へ 

イナップしています。情報量をそのままに、インプットに要する時間を従来の6割以下に抑えていますので、コマ数が多くても復習や演習の時間を飛躍的に増やすことが可能です。

※3 経験者向け講義〔前編〕〔後編〕

短答式試験科目の経験者向け講義は、インプットに要する講義回数をトータルで従来の約6割に圧縮しました。これにより会計士受験生の実力形成に必須となる自習時間を飛躍的に確保することが可能です。次の※5にてご紹介するWeb講義セットと組み合わせて学習を進めることにより、実力形成にじっくりと取り組んでいただけます。

※4 計算科目の経験者向け論文対策講義

上級短答論文、上級論文総合の各合格コースでは、財務会計論（計算）と管理会計論について、論文対策の講義を組み込んでいます。論文式試験において問われる重点出題項目を中心に論点の解説を行います。

※5 Web講義セット標準装備

上級フルパック、上級短答論文、上級論文総合の各合格コースにセットされています。

ご自身の仕上がり程度に応じて、得意な科目は経験者向け講義で効率的に履修し、苦手な科目や分野は初学者向け講義に戻って復習や再確認をするなど、確かな知識を修得していただけます。

短答式試験科目：初学者向け講義をセット

租税法・選択科目：経験者向け講義をセット

※6 管理会計論短答理論対策講義

「原価計算基準」を中心に短答合格に必要な論点を

[表2へ](#) 

[目次へ](#) 

網羅的に解説する講義です。原価計算と管理会計の理論的知識の精度を向上させることによって、不安定な管理会計論を得点の読める科目へと仕上げます。

※7 合格コース特典講義

監査論事例対策講義、企業法論証例解説講義、経営学新試験委員対策講義、租税法令和5年改正特別講義、租税法組織再編税制特別講義は、何れも合格コース特典の講義です。各コースの受講対象者にとって、必須となる知識をインプットしていただけるよう組み込んでいます。

※8 短答実力養成演習

財務会計論（理論）、監査論、企業法について、全出題範囲を6分割した短答形式の教材（演習）により、全6回で実施します。

※9 ステップ演習 I

短答免除者向け合格コースについては、租税法のみを組み込み、財務会計論（計算）と管理会計論を含みません。

※10 短答ファイナル演習（合格コース特典）

NEW

短答公開模試と本試験の間に、まさに最後の締め括りとしてご受講いただく演習です。成績表については本試験と同様に「解答調査リアルタイム集計」にご参加いただき、自己の相対的な出来栄えをご確認いただけます。

なお、各科目の講義や演習の実施内容の詳細については、「2024年受験対策 公認会計士上級コース」パンフレットのカリキュラム紹介ページ（P.45～48）をご覧ください。

表2へ 

目次へ 

3. 大原だけのオンライン校（上級webライブ）

大原では、通学、通信と並ぶ第3の受講形態として、インタラクティブなwebライブ講義を配信するオンライン校を展開しています。2024年受験の上級コースについては、上級フルパックと上級短答論文、上級論文総合の各合格コースにて開講します。

オンラインで講師と双方向のコミュニケーションを取りながら進む講義は、適度な緊張感を維持でき、疑問点の質問も講義の前後にできるので効果的な学習ができます。さらに担任講師がお一人おひとりの学習進捗状況や理解度を把握しているので、その時々状況に応じてタイムリーな情報提供とサポートができます。

また、同じオンライン校に在籍する受講生同士とのつながりを持てるイベントも実施されるので、同じ目標を持つ受験仲間と励ましあって勉強を続けることができます。

参考までに2024年上級フルパック合格コースの[webライブ講義日程の一部](#)をご紹介します。



[目次へ](#) 